

2012年6月24日主日礼拝メッセージ

聖書箇所：ルカの福音書 8章 40～48節

説教題：あなたの信仰があなたを直した

1 会堂管理者ヤイロ

ヤイロは会堂管理者でした。当時イスラエルの人々は、今の私たちがしているように、安息日になると礼拝をするために会堂と呼ばれる建物の中に集まりました。会堂管理者は、名前の通り会堂の管理や、礼拝の順序を決める、当日の説教者を指名する、朗読する聖書箇所を決める、というようなことをしていたようです。イスラエルでは安息日になれば会堂で礼拝することは当たり前のことでした。ですので会堂管理者の社会的ステータスはかなり高いものであったと考えられます。

そんな高い地位にいたヤイロが、人々が群がって押し合いへし合いしているようなところに出て来て、みなが見ている前でイエスの足もとにひれ伏します。

もし私がこのヤイロだったらどうしただろうと考えます。自分の地位のことを考えれば、多くの人が集まっているところにわざわざ行って、そこで地べたに頭をこすりつけることはできるだけ避けたいとまず思います。それよりも、誰も見ていないところでイエスと一対一で会える機会をつくらうとします。できればそうしたかった。しかし、あいにくイエスは長期出張中で留守にしておりました。いつぼう、十二歳になる娘の病状は急激に悪くなっていく。もちろん、有名な医者に診てもらってはいたでしょうが、もう手の施しようがない。あと数日しかもたない、いやあと数時間でしょう、そんなことを告げられ

てしまいました。

みなさんは、ヤイロの気持ちがわかるでしょうか。私はひとりの子供を持つ親になって、初めてこのヤイロの気持ちがわかるようになりました。

私の息子は中学一年の夏休みに病気で倒れました。医者に診せましたが、病気の原因がわからない、治療法がないと言われ、時間ばかりが経っていきます。その間、息子は食べられないのでやせ細っていきます。息子は死ぬかもしれないとその時思いました。親として何かできないかとあせりました。どんなことでもよいから、助かる道はないかともがきました。

ヤイロは、自分の娘の病気がそれほど重くないときは、イエスにお願いすることなど頭になかったでしょう。まして、足もとにひれ伏すなど思いもしない。でも、娘は死にかけている。もうすぐ死ぬかもしれないというぎりぎりの状態に追い詰められたとき、地位も名誉もそんなことを気にかけている場合ではない。すべてを失っても、娘を助けたい。そんな一心で、ヤイロはイエスの前にひれ伏していきます。

イエスはヤイロの願いを聞き、ヤイロの家に向かいます。少し希望が持てた瞬間でした。

2 立ち止まるイエス

ところが、思いがけない事態が起きてしまいます。十二年間、長血をわずらっていた女性がイエスの着物の房にさわり、いやされま

した。もし、そこで話しが終わっていたのなら、「良かったね」で済んだでしょう。不思議なことですが、イエスはそこで立ち止まり、突然割り込んできたひとりの女性に急激に引きつけられ、ヤイロの娘のことは忘れてしまったかのような態度をとられます。

ヤイロは焦ったでしょう。今すぐに走って行って、娘に手を置いて欲しい。その一心でイエスの所にやってきて頭も下げた。それなのに、さあこれからというところで、すべてが動かなくなってしまいます。

弟子たちもヤイロの気持ちを察してか、早く行きましょうとイエスをせかしているようです。でもなぜかイエスは「てこ」でも動かないという状態で、前に進もうとしません。

イエスは45節でこう言われます。「わたしにさわったのは、だれですか。」それを聞いたペテロは、あきれた口調で言い返します。

「先生。この大ぜいの人が、ひしめき合って押しているのです。」それでも、イエスはなおこだわります。「だれかが、わたしにさわったのです。わたしから力が出ていくのを感じたのだから。」

イエスは神のひとり子です。ご自分の着物に手を触れた女性がだれであるのかを知らないはずはありません。いや、よく知っています。知っているのに、「だれですか」と問いかけます。イエスは女性が自分から名乗り出ることを待っているのです。

3 病をわずらう女性

(1) 汚れている

この女性は、なんとかこのまま隠し通そうとします。理由がありました。民数記15章によれば、出血している女性は汚れているとみなされました。そのような女性は人前に出

てはなりません。もし仮に人前に出て、その女性に触れる人がいたなら、その触れた人も汚れたものとなってしまいます。つまり、この女性はやってはならないと定められた律法を破ってここに来てしまった。汚れた自分が、イエスに触れたわけですから、イエスを汚れさせたことになってしまった。律法によれば、これはとんでもない大きな罪になります。イエスの呼びかけに対し、この女性が隠れようとしたのはこんな事情があったからでした。

でもイエスはなぜ呼びかけるのでしょうか。おびえている女性をわざわざ人前に出させ、恥をかかせることは、どうなのかという疑問が湧きます。からだがいやされたのだから、それ以上大げさにしないで、こっそりと女性を帰してやればみんな丸く収まるはずです。

もちろん、イエスは意地悪でこんなことをするわけではありません。この女性のことを心から思っているからこそ、このようにされます。二つのことが言えます。

(2) 神の前に招かれる

ひとつめ。まずイエスと女性との位置関係のことを考えます。女性はイエスのうしろから近寄り、うしろから着物の房にさわりました。このとき、女性のところからイエスの顔は見えるでしょうか。見えません。わざわざ見られないようにと後ろに回ったのですから。しかし、イエスの呼びかけに応答して、進み出たときはどうなったか。47節に「御前にひれ伏し」とあります。女性はひれ伏すために、イエスの正面にまわりました。ひれ伏してはいますが、イエスの御顔を正面に見ることができず、イエスが立ち止まり、「だれがさわったのか」と問いかけた理由。神の

御顔をこの女性に親しく向けてくださるためでした。それがひとつめ。

(3) 神の励ましを受ける

ふたつめ。女性はイエスの正面にまわり、イエスの御顔を見上げたとき、てっきり厳しい顔でののしられるだろうと思っていた。まったく違いました。責める表情はひとつめありません。意外なことに、こんな汚れた私なのに、その私に出会えたことを心の底から喜び、楽しんでくださっている。そんな神の御顔を見ることができました。イエスはこんなことばまで語ってくださいました。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して行きなさい。」

もしこの女性がこのことばを聞くことがなかったならどうなっていたでしょう、一生自分を責め続けたはずです。確かにいやされはしました。でも、どうやってと問われれば、律法によれば犯罪まがいの方法です。隠していくことのつらさで苦しんだでしょう。

イエスは、この女性の将来のことも考えておられました。だから呼びかけるのです。神は決してあなたがしたことを責めたりはしない。いや、あなたは本当にすばらしいことをした。「あなたの信仰があなたを直したのだ」と語って励ましてくださる。なぜイエスが立ち止まり、呼びかけたのか。これがふたつめの理由です。

4 あなたの信仰があなたを直したのです

イエスが語られた、「あなたの信仰があなたを直したのです」とどまりたいと思います。

女性は、イエスの御前にひれ伏しながら、今自分が何をし、その結果どんなからだの変

化が起きたのかを手短かに語りました。人がひしめくような状態ですから、ゆっくりとこの十二年間味わってきたつらさを語ることはできなかったはずです。

この十二年間、あまりにも多くのことがありました。病気を直してもらいたくていろいろな医者にかかりました。その結果すべての財産を失ってしまいました。そればかりではない。人々からは、おまえは汚れた者だと言われてきました。人にだまされ、人にののしられ、人に冷たい視線で見られました。おまえがそんな病気になったのは、おまえに何か罪があるからだと親切に忠告する人もいたでしょう。そんなことを聞かされますます悲しくなりました。だれも助けてくれない。そんな孤独をずっと味わってきました。

先の見えない真っ暗なトンネルのなかで悲しんでいたとき、イエスの噂が聞こえてきました。もしかして着物の房にさわりさえすれば直るかもしれない。そんな単純な動機でイエスに近づいていきました。

よく見てください。この女性はどんな信仰をもっていましたか。イエスを神と信じていたのでしょうか。いいえ。自分の罪を告白したのでしょうか。いいえ。むしろ自分のやったことを隠そうとしていました。ただ病気を直してもらいたい。この汚れた状態から救われたい。ほんとうに単純な動機です。これを信仰と呼んでいいのか。ちょっと戸惑うくらいです。

ところがイエスは、これを信仰と呼んでくださる。どれくらいの信仰かと言えば、十二年間苦しみ、どんな名医も直せなかった、それほどの難しい病気を治すくらいの信仰であった。すばらしい信仰だと言ってくださる。どんなに小さく見える信仰と呼べるかわか

らないようなものであってもよい。ほんとうにイエスは小さな種から何百倍もの実を結ばせてくださる方なのです。

意外でしょうか。御利益宗教ではないか、と言うでしょうか。そうかもしれません。しかし、イエスはどんな動機であっても、ご自分のところに来る者を受け入れようとされます。救おうとされます。

女性は最初、イエスを汚れさせてしまったことを後悔し、震えました。でも、それが御心でした。イエスは喜んで、私たちの罪を引き受け、私たちの汚れを背負ってくださろうとしました。汚れている私たちがイエスに触れることを待っていてくださり、それを「信仰」と呼んでくださいます。

さて、会堂管理者ヤイロの娘はとうなったでしょうか。残念ながら亡くなります。イエスが立ち止まってしまったために、そんな結果になってしまったとも言えます。ヤイロは、「間に合わなかった」と落胆します。でも本当に間に合わなかったのかどうか。そのことは、また次回に見て参ります。